

留学が現在のキャリアにどのように役に立っているのか

2013年 Fox International Fellow 梅川葉菜

私は2013年8月から2014年6月まで Fox International Fellowship により、2014年7月から2015年3月まで東大イェール・イニシアティブにより、イェール大学にて在外研究をさせていただいた。現在は都内の私立大学の法学部政治学科の専任教員として、自身の専門分野であるアメリカ政治を担当させていただいている。

まず何よりも Fox International Fellowship が素晴らしいのは、その充実した支援体制である。Fox International Fellowship は、私自身が留学生活にすぐさま適応でき、研究に集中できる大きな助けとなった同時に、Fox International Fellowship 後の在外研究の延長をも可能にさせていただいた。

実際、Fox International Fellowship では、担当の方々にビザ・保険・住居・大学での諸々の手続きといった複雑かつ手間のかかる作業についてはもちろんのこと、同じフェローとの交流の場の提供や数々のセミナーの開催、学内の情報提供などといったように、フェローたちが慣れない環境にすぐに適用できるように大変細やかかつ丁寧に世話をさせていただいた。そのおかげで、そういった事柄にエネルギーを割くことなく留学先での新生活に馴染んでいくことができたので、プログラム自体は一年に満たないものの、非常に充実した留学生活を送ることができた。

また Fox International Fellowship 後に更に9か月ほど、東大イェール・イニシアティブにより在外研究を延長することに決めたのは、そうした支えの下でイェール大学に腰を据えて研究に没頭することができたからであった。そして在外研究の延長をサポートして下さったのは、Fox International Fellowship にて滞在中にお世話になった先生や大学関係者の方々であった。

そのおかげで、博士論文の執筆が大変捗った。もちろん、イェール大学が提供している授業・セミナー・シンポジウム・図書・論文・その他の貴重な資料・データベースをほとんど不自由なく利用できる環境も大いに役立ったことは言うまでもない。帰国後の2015年4月から日本学術振興会の特別研究員(PD)となることができたのも、2016年4月から現在のポストに就くことができたのも、まさにこの留学中の成果のおかげであったと確信している。

Fox International Fellowship のフェローたちの国際色の豊かさと、多様な学際性もまた、魅力的な要素である。世界中から多種多様な人々が集まり、生活を共にし、色々なことをそうした人々と語ることができたのは、世界の広さを目の当たりにできた素晴らしい機会であった。そしてそうした多様な国際性だけでなく、様々な分野を学ぶ院生たちと互いの研究について議論することができたことも有益であった。自身の研究分野を客観視したり、当然視していた物事について疑問に思ったり、よく理解していることを実はよく知らなかった

ことに気づかされたりした。国内外問わず大学の博士課程に在学していると、他学科、他学部の学問領域を専門としている学生と触れ合う機会に乏しい。そのため、自分自身が思っていた以上に視野が狭くなっていたことに気づかされた。

こうした国際性・学際性という **Fox International Fellowship** の特徴によって得られた広い視野のおかげで、私は自身の専門分野に閉じこもらずに、自身の専門分野を様々な観点から見ることや、他分野の研究について関心を持つこと・学ぶことができるようになった。自身の専門分野について見識を深め研究に没頭することはもちろん大切ではあるが、広く学生や社会に研究成果を還元する際や、他分野の研究者と共同研究をする際には、こうした視点は非常に重要である。したがって **Fox International Fellowship** は、単に現在のキャリアだけでなく、今後の私のキャリアにおいても非常に重要な影響を及ぼしうるものであるといえよう。